



“本格的手術” 中学生が挑戦

神戸の病院

顕微鏡をのぞきながら
眼球模型で白内障の手術に挑む中学生たち
神戸海星病院

中学生に医療への関心を高めてもらおうと、神戸市灘区篠原北町3の神戸海星病院は18日、本格的な手術などを体験する「ブラック・ジャックセミナー」を開いた。参加した中学生たちは、医師らから手ほどきを受けながら、最新の医療機器を使って腹腔鏡手術や白内障手術を疑似体験した。

同病院と医療用品大手のジョンソン・エンド・ジョンソンが共催し、今年で2回目。手塚治虫氏の漫画に登場する天才外科医にちなみ、医療を志す若者を増やそうと企画。神戸市内の中学生ら19人が参加した。

体験内容は、外科▽整形外科▽消化器内科▽眼科▽救急―など幅広く、同病院の医師や看護師ら約50人が指導。実際の手術着に身を包んだ中学生たちは、超音波メスで鶏

肉を切ったり、内臓を映し出すシミュレーション機器を使って胆嚢を摘出したりした。また、眼球の模型を使って眼内レンズを挿入する白内障手術

や人工関節の接合手術などにも挑戦した。母親が看護師として働く姿に憧れ、医師を志しているという神戸龍谷中3年の前川聖さん(14) 。

姫路市は「ものすごく緊張したが、忘れられない経験になった。患者さんから頼られる医師になりたい」と話していた。(畑野士朗)

(畑野士朗)